

1. 3/4 報道 : 残業ボイコット者を軟禁

「先週、残業ボイコットに参加しようとした際に、経営側職員から帰宅をとめられ軟禁された」と、2つの工場に勤める労働者達が訴えている。問題が起こったのは、Kampong Speu 州にある Complete Honour Footwear Industrial Cambodia 社と、プノンペン市の Russey Keo 地区にある Dai Yi Fashion。この工場に勤めていた労働組合代表、そして一般労働者達は昨日、ポスト紙に対して、Dai Yi factory の Worker Friendship Union Federation (WFUF) 代表、Ngem Sophan さんは、「その日、通常の8時間労働を終えた彼らが帰宅しようとしたところ、ローカルの警察がそれを邪魔したため結局残業を強制されることになった。工場は労働者達に残業を強いて、出口をロックしてしまいました」と話す。工場で軟禁されたのは、工場で通常の労働時間を終えた午後4時以降。その日は1週間に渡る残業ボイコットが行われる、最初の1日であった。残業ボイコットが企画されたのは、最低賃金160ドルの実現と、1月上旬のストライキの支援で捕まった21人の解放を要求してのことであった。

また、工場のゲートをロックした後に経営側職員が彼らに対し、「もしいま外出すれば、賃金のカット、あるいは首にする」と脅したとの声も聞こえる。Dai Yi のマネージャー Dy Chanthy 氏は、昨日、労働者に残業を強制したことについて否定したが、工場のゲートを封鎖したことについては認めた。理由については「労働組合などがボイコットをしると押し付けてくるのを防ぐためだった。WFUF は、ボイコットをするようにと労働者達を扇動しようとした。私達がゲートをロックしたのは、労働者達を守りたかったからです」と話している。

また、Complete Honour 社が所有する4つの建物のうち3つもまた、月曜日の午後4時ごろにゲートに鍵をかけた、とされている。こちらの工場に勤める28歳の Srey Neang さんは、「労働者達は通常シフトが終わる前から、残業ボイコットに参加しないように」と経営側から脅されていたと話す。Complete Honour 社の経営側の職員 Xi Jaing さんは、昨日、労働者達に訴えられている内容を否定した上で、「警察を配備したのは確かだが、それはあくまで起こりうる暴動から労働者達を守るためであった」、と主張。

カンボジアの労働法では、残業をするかしないかは各労働者の判断に任されるべき事柄である。カンボジアの法律専門家である Sok Sam Oeun 氏は、「労働者達が訴えている内容が事実なのだとすれば、それは不法監禁であり、48時間かそれ以下だとしても、監禁は禁固1~3年に処されるべき罪だ」という。

2. 3/3 報道 : 組合が大規模集会を計画

各労働組合の代表者たちは今週、与党と野党に対して文書を送り、「労働関係のことが話し合われる予定のパブリックフォーラムに参加してほしい」、との旨を伝えた。Cambodian Confederation of Unions (CCU) の代表 Rong Chhun 氏が、昨日話したところによると、その文書はすでに作成、署名をされているという。このフォーラムは、今月下旬に行われる予定である自宅待機ストライキに先駆けて行われるようだ。参加を促されているメンバーの中には、内務省の Ith Sam Heng 氏もいるとのこと。そのフォーラムが予定されているのは、次の土曜日、国際女性デーと同じ日である。フォーラムが行われるに至った経緯としては、政府が縫製業労働者の求める最低賃金160ドルを実行しなかったこと、1月上旬に行われたストライキを支援し逮捕された21人の解放を拒否し続けていること、などがある。先週、いくつかの縫製工場では残業のボイコットが行われた。労働者側の要求を飲まないままであれば、それ以後に何らかのストライキが行われるもの、と思われていたが、3月12日から19日までは目立ったデモ活動は一度も行われなかった。Community Legal Education Center 労働プログラム代表の Moeun Tola 氏は、主催側はすでにフリーダムパークでフォーラムを行いたい、といった旨の文書を先週作成しており、市に提出していることを話した。

Garment Manufacturers Association in Cambodia が作成した正式文書では、止まないデモ活動のせいで縫製分野はいま大きな打撃を受けている、と発表された。「4月の受注状況に関していえば、多くの工場が減少した」と報告している。また「カンボジアをリスクの高い国だとみなすバイヤーも増えてきた」とも発表されている。

3. 3/5 報道 : 労働組合は大規模集会を実施か

国内労働組合は、昨日政府から禁止の命令を受けたにも関わらず、土曜日に企画していた人権フォーラムを予定通り開催するつもりであることを明らかにした。Independent Democracy of Informal Economy Association (IDEA) の代表を勤める Sok Chhun Oeung 氏の話によると、シティホールで昨日の朝に行われた会議内で、政府が18人の組合代表者に対して述べたことは、フリーダムパークの収容人数はそもそも200人程度であるにも関わらずおよそ1万から3万の労働

者が終結するのは危険である、ということだった。シティホールのスポークスマン Long Dimanche 氏は、「代表 18 人が自分達のオフィスを使用して行えばいいことで、フリーダムパークに数万人集まるのは不可能だ。ここで議論される予定の題目や、集まってくる人数のことを考えると、このフォーラムは社会の安定を揺るがし、また、暴力行為が発生する可能性もあるように思えます」と話した。

しかし、イベントのスポンサーでもある Cambodian Labour Confederation の代表 Rong Chhun 氏は、「シティホールが主張しているようなことは、ただ市民が自由獲得のために行う抗議を抑圧したいがためのものでしょう」と話す。「フォーラムの開催時間も場所も、何ら変更はありません」と Chhun 氏は伝えたが、しかし 18 人で行った会議を終えた後になると、彼は場所に関しては変更の可能性がある、と意見を変え、「もしフリーダムパークで行って、権力の阻害を受けるようなことになっては台無しなので、もしかしたら場所を変更するかもしれません」と述べた。

土曜日に行われるフォーラムは国際女性デーと同日となり、労働組合、人権団体が行う労務省への第二ステージの反発、ということになる。かねてより組合側が求める最低賃金 160 ドルは拒否され、労務省は 100 ドルに落ち着ける構えを見せている。また、1 月に行われた縫製業労働者達によるストライキを支援したとされている 21 人の拘束に関しても、まだ開放には至っていない。先週、労働者達は残業のボイコットを行った。人民党や救国党も招かれていたその人権フォーラムは 3 月 8 日に企画されており、ボイコットはそれを経た 12 日より始まり、早くとも 19 日までは継続されとのこと。フォーラムで話し合いの題目として上がっていたのは、女性の権利や、適切な生活水準を満たされる権利などである。

4. 3/8 報道：計画した大規模集会は阻止される

労働問題を話し合うパブリックフォーラムが、国際女性デーに合わせて企画されていたが、フリーダムパークに現れた警官隊の手によって、労働組合側はこの企画を中止せざるを得なくなった。今回の企画では、18 もの労働組合から代表者が終結し、最低賃金 160 ドルへの賃上げや、1 月上旬に逮捕された 21 人の活動家たちの解放に関して、話し合いを行う予定であった。ただし前もって関係者に提出されたフォーラム開催の訴えは、市民ホールと内務省からすでに却下されていた。Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic Union (C.CAWDU) 代表の Ath Thorn 氏は、「政府が私たちの集まりを許可してくれなかったこと、警官隊によってフリーダムパークへの立ち入りを拒否されたことは、大変私を失望させました。フリーダムパークは、労働者達の自由な活動を受け入れる場所であるべきです」と話した。その日警官隊が現れたのは朝の 7 時、公園と道路の間をブロックして、バリケードのように並んで立っていたという。8 時になるころには、黒のヘルメットをかぶった Daun Penh 地区の警備員達が加わり、警棒を振りかざして立ち入ろうとする者を追い払っていた。

参加を予定し集まってきた活動家達の数はおよそ 500 人ほどだったと推定されているが、彼らは警備員に対して暴言を投げかけたりしたため、フリーダムパークには始終緊張感が漂う事態となった。警備員たちは、結局夜の 10 時まで持ち場を離れることはなかった。簡単な記者会見の中で組合代表者達は、その日警察が行なった自分達への対応と、事前のフォーラム開催の申し出が断られたことに関して非難し、「これは違法な行為です。政府は私達のフォーラムを禁止し、なんの解決策も提示しようとしていません」と Thorn 氏は主張。また、National Independent Federation Textile Union of Cambodia の副代表 Ken Chhenglang 氏は、「このフォーラムが、政府側と労働組合側との協議を進めるきっかけになったはずだ。もし政府が私達のフォーラム開催を容認してくれていたのなら、私達は多くの情報を労働者達に提供することができていました。政府からは Keat Chhon 副首相と内務省の Ith Sam Heng 氏も、フォーラムに招いていました。もしこの二人がフォーラムに参加していたのなら、水曜日開始予定の自宅待機ストライキも回避できたかもしれない」、と彼は話している。

カンボジア救国党のサム・ランシー党首は、フリーダムパークで催されたその集まりに出席し、労働者への支援を表明し、「今日は国際女性デーであり、また、縫製業に従事している労働者の多くは女性であります。彼女たちが求めているのは最低賃金 160 ドルと、逮捕された 21 人の解放であり、私はその願いを強く後押ししたい気持ちです」と演説した。

5. 3/7 報道：失神は健康管理が原因か

National Social Security Fund (NSSF) ディレクターが、「カンボジアの縫製業において労働者の失神が多く発生するのは、長時間の労働によるものではなく、個々の健康管理への意識への低さが原因である」、と発言。1 年に 1 度行われるこの会議ではメインのトピックは、来年から施行予定の年金制度に関するものであったが、同じ場で NSSF ディレクター Ouk Samvithyea 氏が、スピーチの中でこの相次ぐ労働者の失神について触れた。「私達は彼らがなぜ失神を起こすのか、その原因をよくよく調査してみました。すると原因は労働そのものではなく、大半が彼らの健康状態から来るものであることがわかりました。例えば彼らはたとえ頭痛がしていたり、体調不良を感じていたりしていたとしても、医者に行くようなことはしません。お金がとてもおかかると思っているからです」と話した。この会議が行われる少し前に、同じ日に別の 2 つの工場において、100 人以上の労働者が失神するという事態が発生していた。Kampong Speu 州にある SHIMANO 工

場では金曜日に 28 人が失神を起こしたが、Free Trade Union 代表はそれに関して、「原因は工場で使用する糊の匂いだ」、と話している。また、Kandal 州にある Crystal Martin (Cambodia) Limited では 120 人が失神しており、その日に使用されていた酸電池の匂いが原因だと、労働者側からは訴えられている。

6. 3/5 公共バスが本格始動へ

プノンペンについて公共バスが走り始めた。この 1ヶ月間モニボン通りに 10 台のバスを走らせ、その結果乗客者が合計で 4 万 2 千人に昇った。近いうち、中国企業の Global (Cambodia) Trade Development がバスの本格運営が始める計画だ。プノンペンシティホールのスポークスマンである Long Dimanche 氏の話しでは、すでに民間タクシーを運営しているこの Global 社は、バスの運営権を得るために集まった、数多くの企業の中から選ばれたとこのことだ。バスチケットは乗車 1 回につき 1500 リエルである。



「もはや JICA に頼る運営ではありません。明日から、シティホールと Global 社はさらに一ヶ月モニボン通りで試用運行を継続させます。そしてそのあとに、Takhmao やストリート 271、Charles de Gaulle Boulevard などに路線拡大させていこうと思っています」、Long Dimanche 氏は話す。JICA アーバンマスター計画の責任者である Masato Koto 氏は、「現在このバスプロジェクトに関して JICA がサポートしているのは、人材養成と技術的なアドバイスだけだ」と話す。「私達(シティホール)も Global 社も、この事業の開始で利益が得られるとは思っていません。しかしバスのサービスを提供するためにいくらかの犠牲は必要だと考えています」(JICA は昨日終了したバスの試用運転に対して全面的な投資を行っていた組織である)。「バスの試用運転に関して言えば、成功でした。もしこのシステムを維持することができれば、それは結果的に偉業となるでしょう」、と彼は話す。試用運転期間の最初の 2 週間は、毎日 1700 人がバスを利用する結果となったが、残りの 2 週間は少し減って 1500 人であったと、Dimanche 氏は話す。「乗客の 90%が、バスサービスに満足したようです」と話す。また Dimanche 氏は、「1000 人の乗客に対してアンケートを行い、ほとんどすべての人がサービスに関して『とても良い』か『良い』で答えた」ことを付け加えた。

7. 3/6 税金徴収に対し新たなルール

フン・セン首相の命令により、税務署員やローカル市場の集金人による恐喝や嫌がらせを、厳しく取り締まることが決定した。これにより対象となる行為が発生した場合、シティホールは法的手段を取ることを約束。プノンペン市議員である Pa Socheatvong 氏は、「罰金だけでこの恐喝、嫌がらせをなくすことは難しいでしょう。我々は今後税務署員、集金人に対して強固な姿勢をとり、もし彼らが間違っただけを行ってわかれば、すぐに解雇し裁判所に訴えて出ます」と話した。また、税務署員は今後、税金回収を行う際には制服を着用することも求められるようになる。「税務署員全員が制服を着用し始めるまで、私は 15 日間の猶予を与えます。制服には個人の名前と、識別番号が見えるようになっていないといけません」と彼は話す。

新たなルールは、ローカルの現場で働く公務員たちに、もっとモラルのある態度で仕事をさせるための第一歩であるという。プノンペン市内にある Royal School of Administration の卒業式で、フン・セン首相は、先月行った彼自身の発言に対して、「ちょっと強引すぎる方針かもしれない」と、少し距離をとった言い方をした。また、「ローカル市場の賃貸料などを集めて回る集金人や、税務署員の多くが、自分達は人民党のために働いているのだ」、という間違っただけの意識を持っている、と話した。アナリストの Chea Vannath 氏は、「露店商人と集金との間でたびたび起こる争いは、それぞれの公共サービスに決まった値段を設けない限り終わることはないでしょう。例えば露店にかかる費用を、場所や商品によって前もってちゃんと定価を設け、それを掲示板に貼ってみんなが見れるようにしておくことは、争いをなくすのに効果的な方法なのではないかと思います」と話す。

8. 3/14 日本がクメール・ルージュの特別法廷に寄付

クメール・ルージュ裁判を行うための援助を行っている日本が、さらに 183 万ドルを裁判継続のために寄付した。これで日本がクメール・ルージュ裁判に投資したお金は合計で 8000 万ドルを超えることとなった。日本大使館の Takayoshi Kuromiya 氏は、「日本が寄付したお金はすべてカンボジア特別法廷を調停する国連派遣の議員達に貢献することとなるでしょう」と話す。「日本はこれからも、クメール・ルージュ裁判進展のための寄付を行います。また同時に、この裁判は国連総会の決議によって始められた裁判なのですから、もっと多くの国が裁判に寄付をすることも大事だと感じています」とも述べた。

9. タイ、カンボジア国境近くの商業ビル、1時間で完売

タイの不動産開発ナチュラル・パーク(N-PARK)は、カンボジアと国境を接するタイ東部サケオ県のアランヤプラテートで建設を進めている複合施設「パーク・アラン・ブルーバード」の第2期開発に乗り出すと発表した。第1期の商業ビルは予約開始後1時間で完売した。国境近くのロンクラア市場周辺の土地 800 ライ(128 ヘクタール)に商業ビルや住宅を開発する。第1期分では3階建ての商業ビル1棟(62 ユニット)と8階建てコンドミニアム(分譲マンション)2棟(計514戸)を建設する。販売総額はコンドミニアムが5億5,000万バーツ(約17億3,000万円)、商業ビルが2億5,000万バーツ。第2期は3階建て140ユニットの商業ビル1棟とする計画。分譲価格は1ユニット390万バーツからで、販売総額は6億2,200万バーツ。今月28～30日に予約を受け付ける。

以上